

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会  
放送業務委員会（第2回）議事要旨

1. 日時

平成 23 年 7 月 8 日(金) 15:00～17:30

2. 場所

金融庁 904 共用会議室（中央合同庁舎 7 号館 9 階）

3. 出席者（敬称略、五十音順）

（主査）

伊東（東京理科大）

（主査代理）

都竹（名城大）

（委員）

鈴木（東北大）

（専門委員）

石田（日本テレビ）、高橋（フジテレビ）、豊中（TBS テレビ）、西田（NHK）、平川（東芝）、三木（三菱電機）、山内（NHK）

（説明員）

高田（NHK）、浅見（テレビ朝日）、渡辺（NHK）

（事務局）

総務省情報通信政策局放送技術課

田中課長、沼田技術企画官、浦本課長補佐、松浦国際係長、川上官

4. 配布資料

資料 放-2-1

放送業務委員会（第1回）会合議事概要（案）

資料 放-2-2

ITU-R SG6 関連ブロック会合（2011 年春期）報告書（案）

資料 放-2-3

今後の検討スケジュール（案）

参考資料 1

放送業務委員会構成員名簿

参考資料 2

2010 年秋期会合で仮採択された勧告案等の状況

5. 配布資料確認

事務局から配布資料の確認を行った。

6. 議事

6-1 前回議事録の確認

資料 放-2-1「放送業務委員会（第1回）会合議事概要（案）」については、各自一読後、意見がある場合は別途事務局まで連絡することとなった。

## 6-2 ITU-R SG6 関連ブロック会合の結果について

資料 放-2-2「ITU-R SG6 関連ブロック会合（2011 年春期）報告書（案）」に基づいて、会合参加者より報告があった。主な質疑応答は以下のとおり。

### <WP6A>

○放送保護の勧告 BT.1895 について、PLT と RR に記載されていない業務は、どのような扱いになっているか。共用基準については SG1 で検討し、保護基準については SG6 で検討するなどの議論があったが、どのようなところで落ち着いたのか。

→BT/BS.[PROTECT]は昨年秋会合で承認され、BT.1895 となったが、30MHz 以下の PLT については SG1 の勧告に入っているため、BT.1895 からは除外されている。30MHz 以上については、本勧告に記載のある「-20dBm」を適用する。

○今回はデジタルラジオの勧告が多かったが、世界のどこに行ってもローミングできるように、といった話があった。

### <WP6B>

○OHDTV の定義は、走査線数だったと思うがどうなのか。

→HDTV について、数値的な定義はしていない。3H の所から見て、実物と比較して遜色のない景色、というような理解である。

○OHDSDI のペイロード ID はどういった働きをするのか。定義が変わったのか。

→数値が変わった。色々なフォーマットに対応する。SDI の補助データ領域にパケットを入れて、どのような信号であるかを定義する信号を入れる。

○ハイブリッド放送の今後の作業予定、関心を持っている国はどうか。

→今後の作業予定について、具体的な記載はない。ブラジルが積極的である。世界的に複数のシステムがあり、欧州だけでも 4 種類存在し、実用化もされている。放送事業者が舵取りしていく必要がある。

→コンテンツの有料・無料、画面に対して誰が責任を持つか、など議論すべき点があるので、しっかりやっていただきたい。

### <WP6C>

○3D について、ISO で 3D の生体安全性について標準化の動きがあるが、ITU でもこの件について標準化をする必要はないのか。

→ISO TC 159 では、光感受性刺激、3D、2D の映像酔いに関する生体安全性を取り扱っている。3D については、国内では JEITA で検討されている。ISO は標準化を急いでおり、7 月中に NP (New Work Item Proposal)

提案する考え。

- 番組制作上の制約となる内容が提案されているため、放送事業者としては問題があると考えており、D p a と J E I T A で調整作業中である。
- I S O では人間工学的な立場で検討している。放送サービスとしては、I T U - R でも 3 D に関する勧告を作成すべきだと思う。
- S G 6 で意見が出始めているならば、日本としても出していないといけない。I T U に出すには、国内の規格を決める必要がある。

#### <SG6>

○組織論の内容があったが、以前やらなかったか。

- 4年前にやったが、今のBR局長は分け方が適切でないと考えている。
- ITU 部会も再編されたが、活動する方々がやりにくくならないように、注意はしてもらった方が良くもしいない。
- SG6 は End to End であり、すべてここだけで完結しているユニークなところである。
- 放送に対する風当たりが強くなってきており、放送分野は聖域であると言いつらくなってきた。今後、守らなければいけないところは、守っていかなければならない。放送関係者は、通信関係者とは文化や考え方が異なる。しっかりとしたスタンスを保ち、理解してもらえるところは理解してもらうことが大事。

#### 6-3 今後の検討スケジュール

資料 放-2-3「今後の検討スケジュール（案）」に基づいて、事務局より説明があった。

#### 7 閉会